



●前号 (vol.59) 『山の水が枯れてきた～水源を訪ねる』に掲載していた『大戸洞舎 (現・タネトヒト)』のinstagramのQRコードが名称変更によって現在はアクセスできません。

『タネトヒト』の新しいHPを改めてご紹介します。素敵なHPです。ぜひ一度アクセスしてみてください。



<https://tanetohito.com/>

暮らし育て組 (ひだまり学舎)
～ 4月の予定～
滋賀県蒲生郡竜王町林 358

かまど組 毎週木曜日 13:30～15:30 ころくまは体験参加
いえ組 4/18 (土) 10:30～11:45
ひつじ組 4/22 (水) 10:00～15:00
たね組 4/5 (日) 種おろし
5/24 (日) 泥リンピック

産前産後のよりみち 4/16 (木) 10:30～11:30+ランチタイム
ひだまりごはん 毎週水曜・木曜 12:00～14:00
カフェむすび 4/18 (土) 12:00～14:00

お産の体験手記集 あまいろだより別冊 『OSANBÖN vol.2』発行! TAKE FREE

女性がしっかり尊重されたお産はその後の子育ての基盤です。お産の選択肢がますます少なくなっている今、語り合いが大切と、お産の体験手記集を作りました。

引き続き協賛金募集中です～!
『OSANBÖN vol.3』の制作も予定 (2026.11)
一口1000円から/目標金額 10万円
ご希望の方には OSANBÖN vol.3 をお届けします

何度でも洗ってつかえるエコラップ Mitsuro Wrap 販売中!!

オーガニックコットンの生地にミツロウ (たまばん@信楽の二ホンミツバチのミツロウ、オーガニックミツロウ) とオーガニックココナツオイルと松ヤニをいい塩梅にブレンドして、あまいろ探偵団が手づくりしています。(監修 Biwabochi ちまり)

▶取扱店 Base For Rest (東近江)、自家製酵母パンひとつぶ (能登川)、NPO 碧いびわ湖 (安土)、自然食品と生活用品の店 hana (草津)、cafe あわいさ (信楽)

▶発送ご希望の方は、あまいろだより FB・インスタにメッセージにてお問い合わせください。(送料別途)

Sサイズ 13×13cm (半分に切ったリングなどに)
Mサイズ 20×20cm (お皿に残ったおかずなどに)
Lサイズ 26×26cm (サンドイッチやおにぎりなどに)
LLサイズ 28×40cm、36×36cm (キャベツ半分などに)

あまいろだより(天色便り) 第60号 特集 暮らし育て ひだまり学舎 発行日 2026年3月15日
編集 あまいろ探偵団(北岡七夏・志葉未来・中野和子・藤井朋子・森優子) 表紙タイトルロゴ 岸田知之
発行 特定非営利活動法人碧いびわ湖～大切なことを他人まかせにしない、自分たちで力をあわせてつくる～
TEL 0748-46-4551 FAX 0748-46-4550
Eメール info@aoibiwako.org ブログ <http://aoibiwako.shiga-saku.net/>
びわ湖の森を元気にするkikitoペーパーを使用しています(びわ湖の森の間伐材活用)

手づくり市民メディア

あまいろだより



vol.60 暮らし育て ひだまり学舎
2026.3.15

プロフィール



よしだしょうこ
吉田 尚子 さん

暮らし育て組・代表。家事セラピスト、家族相談士として、『いえ組』の講師も勤める。元保育士さん。好きな食べ物は生姜。



こうやまよしみ
神山 芳美 さん

『かまど組』リーダー、ひだまりごはんメンバーとして、週1回程度ランチ提供も担当する。毎日8人家族のごはんを作るお母ちゃん。本業はネイリスト。好きな食べ物はハンバーグ。



ひだまり学舎

滋賀県竜王町林にあるコミュニティスペース。2015年から地域おこし協力隊が地元地域の人たちと空き家の改修を開始し、2018年『暮らし育て組』を立ち上げ、「家庭でも、地域でも、みんなで。暮らすこと、子育てすることをはぐくむ。」を理念に、主に子育て中の親子の居場所づくりに取り組み始める。『かまど組』『いえ組』『たね組』『ひつじ組』など、多様な活動を展開する。2023年よりNPO法人竜王子育てネットワークに合流。

竜王町にある『ひだまり学舎』さんの活動についてお聞きしました

ここに来れば誰かがいるよ
みんなで暮らしをつくるよ
そうやって立ち上がった居場所があります
暮らしを重ね、支え合うコミュニティと
たくさん笑い声がここにはあります



暮らし育て組 代表。家事セラピスト、家族相談士として、『いえ組』の講師も勤める。元保育士さん。好きな食べ物は生姜。

生まれればかりの赤ちゃんや
パワー全開の小さい人と過ごす日々
ごはん、洗濯、片付け、ごはん、そうじ、「ママあそばし」、ごはん、おふる...



『ひだまり学舎』

あまいる(以下あ) 竜王町にあるひだまり学舎さん、いつから、どんな思いから活動が始まったのでしょうか?



吉田尚子(以下尚) 二〇一五年に、この建物がおこし協力隊とこの地域の住民が一緒になって、改修のプロジェクトが立ち上がりまして、クラウドファンディングで資金を集めて改修を進めました。その当時、竜王町を見渡した時に、高齢化の課題についてのが一つあった。でもおじいちゃん、おばあちゃん、の居場所というのは、みなさんが一生懸命つくってきてたんですね。ところが、産前産後のお母さんの行き場所が、各集落のボランティアの方がやっておられるサロンくらい。でもそれ

もどんどん減ってしまっていて。なので、地元地域以外に寄れる場がある、そういう選択肢をつくりたいねということ、どちらかということとお母さんたちの居場所としてスタートしました。『ひだまり学舎』というのは、あくまでも建物の名前です。ここで何をやるのか、その『何を』のところを『暮らし育て組』という名前をつけてつくるようになってから、私も参加しました。『今日の暮らしと明日の暮らしを支える』活動をしています。

衣食住を一緒につくる

あ その『暮らし育て組』の中にいろんな活動があるんですね? 芳美さんは『かまど組』のリーダーをされているとお聞きしました。



神山芳美(以下芳) そうです。お母さんたちが毎週木曜日の午後15時から集まって、一緒に夕飯のおかずを作るという活動をしているのが『かまど組』です。細長い仕出しのお弁当箱に、副菜を四品入れて持って帰ります。ちょっとお肉欲しい人は、おうちでお肉を焼いたり、魚だけ焼いたら晩ごはんのできあがり。

あ いいですね。メニューは決めておくんですか?

芳 私がある程度決めて紙に書いておくと、みんながそれを見て『じゃあ私、野菜洗おうかな』って作り始めて。最初は『料理できへん』って言って、料理に関わってくれる方は少なかった。でも、作るの家のごはんなのでお店みたいにしないでいい、『野菜切るのもおうちでやるよ』っていいですよ。とか、味も『今日薄かったかも、ごめんね』みたいな感じになってきたら、だんだん皆さん作ってくれるように。料理しながら、いろんなことしゃべって。子どもさん今は一歳くらいが多いので、『うちはまだ遅いんやけど』って相談したり、先輩に聞いた。皆さん、小さい子どもさん連れてきてはるの

のも一つの仕事として、『料理苦手だから、私は守りに徹するわ』という人もいます。

あ 『たね組』というのは?

尚 米作りを初から種を蒔いてるところから、みんなで手作業でやるうっていう活動をしているのが『たね組』です。

あ それはどなたがこの地域の田んぼを持っている方が貸して下さって?

尚 はい、そうです。この地域の中で使っている方も、今年で四年目です。水の管理も全部自分たちでやるんです。そうすると、田んぼって地域の中でつながっているの、それを全部任せていただくことなので、やっぱり下手なことはできひん。一年ずつ反省会をして、どういう形だったら続けていけるかを考えながら活動しています。地域の人も、親子で作業しての様子を見ておもしろいなっていうので、一緒に作業して下さったり、写真を撮って下さったり。

あ 全て手作業でやるんですか?

尚 最初は全部手作業で始めました。その後は、ここだけは手作業でやりたいっていうところをみんなで確認しながら、脱穀の部分だけはコンバイン使おうとか相談してやっています。たね組は今、二十組くらい登録があって、子連れの方だけではなくて、独身の方で本気で農家になりたい人もいて。ここで学んで、実際に自分の地域で米作りを始める方も出ていらっしやいます。

あ その他には?

尚 『いえ組』は毎月一回、私が担当してるんですけど、片付けや家の中のこと、お母さんたちの悩みも多いですし、もう大丈夫ってなかなかないですね。子どもが生まれたらうわーって生活も変わるわけで、ストローブ一つとっても、赤ちゃん寝てはる時はどうもないけど、動き出したら『え、これこのストローブでいいの?』とか。幼稚園・保育園行くなってなったら、夕方と朝だけめっちゃくちゃ忙しいとか。あと、赤ちゃんを育ててる時って、思考が散漫になって考えられなくなるが増えたりも。なので、自分の思っていることを書き出してみることで気づくことがあったり、集まった人たちでしゃべり合うことで、『あ、こうしたらいいんや』っていうヒントが得られたり。片付けは入り口ですけれども、根っこにあるのは家族とのコミュニケーションの問題やうまくいかなさだったりするところがある。私は、家族相談士という資格も持っているの、それも活かしながら相談できる場を作れば、ということをやっています。

あ 子連れで来ていいんですか?

尚 子連れで来れます。それが『いえ組』。衣食住の食があって、住があって、衣の部分

が『ひつじ組』です。一番最初、地域おこし協

力隊でやっておられた方が、羊の毛刈りから羊毛を得て、その羊毛を洗って毛糸をつむぐ過程を体験できる場をつくりたいって思いがあって。

あ 羊がいたんですか?

尚 いいえ、竜王にはアグリパークがあるんですよ。そこに行くと毛刈りして。でも、洗うのがなかなか大変なんです。なので今は、すでにきれいに色付けされたものでフェルトを作ったり。京都の城陽市で羊毛の雑貨店をされている方がずっと協力してくださってるので、フェルトの作品づくりを教えていただいたり。それから布仕事、繕い物。破れたものをすぐに捨てちゃうんじゃなくて繕いながら、大切なものを大事に長く使うっていう価値観は持ちたいよねっていうことがあって。

あ 私、母の着物を何か活用できないかなって思って講師さんに相談したら、『パンツにできるよ』って教えていただいて、夏のパンツにしました。春休みは、娘がたまに一緒に来て、『編み物したい』って言ったんで、講師さんに教えてもらったら、結局朝から終わりまでずっと黙々と挑戦して。子どもの興味を引くタイミングで、教えてもらえてよかったです。

あ ひつじ組も定期的にされてるんですか?

尚 はい、ひつじ組も月に一回、第四水曜日にやっています。組と呼んでいる活動はこの四つです。

人とつながり広がる活動

尚 他にも、ひだまりごはんといってランチの提供を、今は週二回、水曜日と木曜日にやっています。今、近江八幡でもお店をされてる、細居たみさんがここで初めて食堂をしてくださりました。二〇二五年からは月に一回、週末におむすびランチとカフェ営業も始めました。今は芳美ちゃんも含めて、レギュラーで四人の方が交代でランチ提供をして下さっています。

もう一つ、『産前産後のよりみち』っていう月一回、助産師さんがミニ講座をする活動があります。平均して七組ぐらいのお母さんが来てくれています。講座後に、お母さんたちがごはんを食べるっていうのをセットにして。その時に、『いいよ、お母さんは見とくからゆくりごはん食べて』ってお母さんに言えるように、見守りのおばちゃんたちがスタンバイしています。

この集落の方が交代で見守りに来てくれるんです。それまでも同じような活動はしてたんですけど、地元地域の人が関わる関わりしるを用意してなかった。そこを三年前から改めて、地元地域とのつながり作りを大切にしようとして取り組み始めて、地域の中で取りまとめてくださる方が繋がることで、行ける人が手を挙げて来てくださる。リピートして下さるうちに、

地域の方のひだまり学舎への理解が深まってきました。

あ 最近、他団体と協働した活動もされているとか。

尚 竜王子育てネットワークというNPOがありまして、三年前からそこと一緒に活動しています。フリースクールや、小学生から上の子どもたちの放課後の居場所など、活動が広がってきています。ここでの活動を図書館や公民館に持って行って、やってみたり。ふたを開けてみると、赤ちゃんから、小学生、中学生、青年期までのご家庭に何らかアクセスができるような活動ができてきたねっていう、今そこですね。

あ 暮らしを重ねて生まれる支え合いの形

あ 芳美さんはランチの提供も担当されてるんですね。どうやってここに出会われたんですか?

芳 私、一番上の子が小さかった時に参加者として来て。何回も来るうちに、たみさんのランチのお手伝い係に声をかけてもらって。そのうちに、独り立ちしてみたい? って言っていたら、本職はネイリストなんです、私。

尚 でも芳美ちゃんは毎日八人家族のごはんを作っていて、とっても上手だからランチもできるんじゃない? って思ってた。ここに関わった人の才能が開花して、何かやりたいことができるといいなと思ってます。

たね組のリーダーをしてくれている方もそうなんですが、講座に来たのが入り口で、そこからこういうことをやりたいんだっていう会話が起きている中で、活動が生まれています。

あ 参加者さんからはどんな声がありますか?

尚 かまど組では日誌にコメントを書いてもらってるんですが、『チームワークがうれしい』という声をたくさん頂きます。例えば、お母さんはエプロンして料理する気やねんけども、赤ちゃんが人見知りしてどうしようもない時がある。その様子を見て、自分も二年前はそうやったなって思い出した、『いいいい、こっちは見ておくから』とか『料理するから、

子どもと一緒にいたって』って言うて助けてもらえたから、今度は自分の番だなと思った。こういうことが感じられる場が続いてほしいと書いてくださった方がいて、とっても嬉しかった。自分ひとりでは『しんどい』、『ごはん作るの嫌や』っていうところから集まってきて、ここで仲間になって。

あ 素敵ですね。

尚 実はそれが願っている姿なので。芳 ここでは、自分の子を抱っこしてないお母さんが多くて、私はAさんの子を、私の子はBさんが抱っこしてる、それは他の場では見られへんなと思ってね。任せられる安心感があります。

尚 何かチーム的な感じで、ここで泣いているから『私、これ行きます』、自分の子泣いてるけど、『それお願いします』という面白さがある。人に頼む、頼るっていうことがここのいいところだと思ってると思います。

あ 家だと孤独だったりするじゃないですか。核家族で夫が勤めだと、昼間は、大人は自分しかいないしね。先日、子育て中の友達が『時々、自分ばうんこ製造機だっけ気持ちにならなくてつづやいて。仕事を辞めて、自分が社会の中で何も生み出していないような気持ちに駆られるって。日々一生懸命、子どもと向き合っているのにね。経済活動の輪の外に置かれた途端、とっても生きにくい社会があるなって思います。

尚 直接声はかけないけど、大丈夫かな? って思ってた見たり、目線を合わせたたりすることは大事にしています。その人が頑張っていること、しんどいことも含めて、その人の存在そのものを見てよ、いいよ、という気持ちで。それがその人と社会とのつながりの一つでもあるし、できるだけ受けとめてることを返したいと思って。かまど組では芳美ちゃんがいっぱい二〇二〇してくれてるから、それがいい。何回か来たら、もう第二の家に帰ってきたみたい、あんまり運営する人とお客さんという風に分かれなくなっていくのが嬉しいです。のれんにも『おかえり』って書いてるんです。

あ 各地にこんな場所がほしいですね。これからも楽しみです。

暮らしのコラム

2026年突然の衆議院解散総選挙後に気づいたこと

たまさき ようこ 玉崎 洋子 信楽自然育児サークルなちゆるま代表

こんにちは! 突然の解散総選挙が終わりました。今回の選挙はネットでのイメージ戦略が一気に広がり、たくさんの広告がどんどん流れて『高市さん、なんか良さそう』っていうイメージで、どんな政策を掲げているかは知らないけど投票した方も多かったんじゃないかと言われています。「なんかやってくれそう〜」って。そして自民党が3分の2の議席をとって、単独でなんでも

通ってしまう国会になりました。国会でおかしなことを追及する野党の数も減ったので、いろんな問題が見えてこなくなるかもしれないし、深い審議もされないまま多数決で通ってしまうでしょう。知らない間に、私たちの暮らしや生き方に大きく影響することも決まっています。少しずつ社会の仕組みが変わっていても元に戻すことはできません。その決まった仕組みに従うだけです。税金がどんどん上がっていても、社会保障がどんどん減っていてもです。原発の再稼働もスパイ防止法も緊急事態条項も非核三原則もです。それくらい選挙は私たちの暮らしや生き方に直結してるのに、国会がこんなに1党独裁になってしまって、無力感に落ち込むばかりです。どうしたらいいんでしょうか〜。ユダヤ系ドイツ人の政治哲学者ハンナ・アーレントはナチスドイツの高官のアイヒマンの裁判に傍聴に行き、数百万人のユダヤ人を絶滅収容所に送り込んだ責任者だったアイヒマンを見て衝撃を受けます。世に言われる極悪非道の大悪人と

は程遠い人物だった。職務に忠実なだけで、それ以外に何も考えない平凡な小役人。そこでハンナは「悪の凡庸さ」という概念を導き出します。「悪は悪人が作り出すのではなく、思考停止の凡人が作る」と。毎日大量にスマホから流れてくる情報に浸り、深く考えなくなっているのは誰にでもあること。「なんか良さそう〜」の「なんかって何?」と改めて考えてみるような問いから、新しい気づきや発見があったりするのかも! 考えるのって楽しいですよ〜。思考停止して見た情報を鵜呑みにしちゃうことやと思うので、自分にも人にもまずは問いかける癖をつけたいのかな〜。そしたら対話も生まれるし、その対話を深めていったら違う考え方の人も少し分り合えたりして、それが積み重なったら民主主義ってできてくるのかな。民主主義は上から与えられるものじゃなくて自分たちで作っていくものだったんですね。そうだった。思い出した。「思考停止の凡人」にならないように気をつけなくちゃ!